

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第3区分  
 【発行日】令和5年2月1日(2023.2.1)

【国際公開番号】WO2021/200793  
 【出願番号】特願2022-512190(P2022-512190)

【国際特許分類】

C 0 8 J 5 / 0 4 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 B 3 2 B 5 / 2 8 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 B 3 2 B 2 7 / 0 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 B 3 2 B 2 7 / 0 4 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 B 3 2 B 2 7 / 3 6 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 B 2 9 C 7 0 / 1 6 ( 2 0 0 6 . 0 1 )  
 B 2 9 C 7 0 / 4 2 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

10

【 F I 】

C 0 8 J 5 / 0 4 C E Z  
 C 0 8 J 5 / 0 4 C F D  
 B 3 2 B 5 / 2 8 A  
 B 3 2 B 2 7 / 0 0 1 0 3  
 B 3 2 B 2 7 / 0 4 Z  
 B 3 2 B 2 7 / 3 6  
 B 2 9 C 7 0 / 1 6  
 B 2 9 C 7 0 / 4 2

20

【手続補正書】

【提出日】令和4年1月18日(2022.1.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

30

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

連続繊維シートにマトリックス樹脂組成物が含浸した繊維強化プラスチック成形材料であって、

前記マトリックス樹脂組成物が、芳香族ポリエステル樹脂と、フェノキシ樹脂（臭素化フェノキシ樹脂を除く。以下同じ。）とを含有し、前記2種の樹脂間で熱架橋による硬化性を示す樹脂組成物であり、

芳香族ポリエステル樹脂とフェノキシ樹脂との含有比率（芳香族ポリエステル：フェノキシ樹脂）が重量比で7：3～1：9の範囲内であることを特徴とする繊維強化プラスチック成形材料。

40

【請求項2】

芳香族ポリエステル樹脂がポリエチレンテレフタレート、またはポリブチレンテレフタレートのいずれかである請求項1に記載の繊維強化プラスチック成形材料。

【請求項3】

前記樹脂組成物の溶融粘度の温度による変化量が、樹脂組成物に配合された芳香族ポリエステル樹脂の融点（ $T_m$ ） $\pm 20$  の範囲において  $-2200 \sim -50 \text{ Pa} \cdot \text{s}$  / と なる請求項1に記載の繊維強化プラスチック成形材料。

【請求項4】

前記樹脂組成物の溶融粘度について、270 で5min保持後の溶融粘度を最小値と

50

したとき、該最小値に対して、270 で20min保持後の溶融粘度の増加率が100%以上である請求項1に記載の繊維強化プラスチック成形材料。

【請求項5】

連続繊維シートが炭素繊維、ガラス繊維、アラミド繊維、バサルト繊維から選択されるいずれか一種又は二種以上の強化繊維からなる一方向強化繊維基材又はクロス材である請求項1に記載の繊維強化プラスチック成形材料。

【請求項6】

請求項1～5のいずれか一項に記載の繊維強化プラスチック成形材料を積層してなることを特徴とする繊維強化プラスチック成形体。

【請求項7】

請求項1～5のいずれか一項に記載の繊維強化プラスチック成形材料を複数枚積層し、芳香族ポリエステル樹脂の融点(Tm)以上の温度で加熱プレス成形することを特徴とする繊維強化プラスチック成形体の製造方法。

10

20

30

40

50